

令和6年度国立若狭湾青少年自然の家教育事業

「自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成事業」R6.11.30（土）～12.1（日）

◆ねらい

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、自然体験活動における活動や支援にあたる自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成する。

◆参加実績

参加 12名（うち、単位互換による科目履修者：1名）

年代 10代：1名 20代：5名 30代：2名 40代：1名 50代：2名 70代：1名

◆プログラムとその内容

事前受講

オンデマンドでの配信 講義「青少年教育における体験活動」：青少年教育の内容、現代的な課題について理解を深める。
講師：国立若狭湾青少年自然の家 所長 玉井茂博



- 青少年教育における体験活動について、体験活動に関する基本的事項について押さえ、教職経験を有する講師から学校の中での体験活動の事例を基に、地域と連携した体験活動の魅力について講義した。また当機構の研究センターが調査した「青少年の体験活動等に関する意識調査」の調査結果に触れ、青少年の現状について共有する機会を取り入れた。

11月30日（土）

8：45～ 集合、受付開始

9：30～10：30 開講式、講義「ガイダンス」
講師：国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職・主任講師 小林祥之

10：30～12：00 講義「対象者理解」：対象者への配慮と対応方法を学ぶ。
講師：appReciate.LLC 代表 杉浦 いちこ 氏



- これまで講師が関わってきた若者への支援に関する事例を基に、現代の若者が抱える課題の観点からアセスメントの重要性と活用に関することや各年齢期における特性について講義をした。また事例検討のワークショップを行った。

13:00～14:30 講義・演習「自然体験活動の指導」：自然体験活動の指導方法、指導技術を学ぶ。
講師：国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職・主任講師 小林 祥之



●自然体験活動の指導について、指導者として必要な「基本的な心構え」と「倫理観」の観点から、自然体験活動指導者として必要な要素について講義した。また、目指す指導者像などに関してワークショップや意見交換を行った。

14:30～19:30 演習「自然体験活動の技術」：自然体験活動の専門的な技術を体験し、理解を図る。
講師：国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職・主任講師 小林 祥之



●自然体験活動の技術について、野外炊事（カレー作り）を通して、火起こしや調理に関することについて参加者への導入指導をした上で、各グループに分かれて実践活動を行った。また、振り返りでは実践活動に関連させて参加者の視点（どんな学びがあったか等）、指導者の視点（改善すべき点等）を題材にワークショップを行った。

12月1日（日）

7:00～8:00 演習「自然体験活動の技術」：自然体験活動の専門的な技術を体験し、理解を図る。
講師：国立若狭湾青少年自然の家 企画指導専門職・主任講師 小林 祥之



●自然体験活動の技術について、野外炊事（カートンドッグづくり）を行い、前日の振り返りで挙げられた事項に着目しながら、演習を行った。

9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0 講義「自然体験活動の特質」：自然体験活動の意義や課題について理解する。
 講師：NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター 事務局長 齋藤 新 氏



●自然体験活動の利点・おもしろさ・難しさを知るという観点から、グリーンウッド自然体験教育センターでの実践事例を基に、自然体験活動の意義や課題について講義をした。また、前日の野外炊事の体験を題材に、自然体験から得られる要素について、グループ毎に意見を出し合いまとめた。

1 2 : 4 5 ~ 1 5 : 4 5 講義・演習「自然体験活動の安全管理」：安全管理の意義と方法を学ぶ。
 講師：NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター 事務局長 齋藤 新 氏



●自然体験活動の安全管理に関する概要と心構えについて知るという観点から、前日の野外炊事の体験を使ってK Y T（危険予知トレーニング）を行い、自然体験活動を安全に実施するための方法についてグループ毎に検討した。また最後には、対象者を指定し野外炊事を行う際のセーフティトークについて協議し、実演することで、安全管理への理解を深めた。

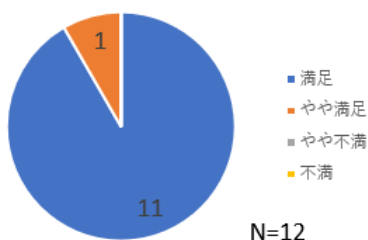
1 6 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0 認定試験
 1 6 : 3 0 ~ 閉講式、解散



◆成果

・「全体の満足度」に対して、11名から「満足」、1名から「やや満足」と回答があった。

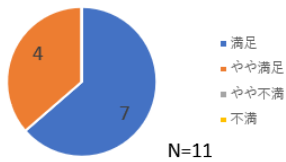
事業全体を通していかがでしたか



・各講義の「満足度」は以下のとおりとなった。

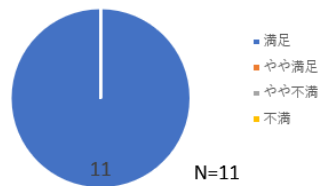
【青少年教育における体験活動】

「青少年教育における体験活動」
はいかがでしたか



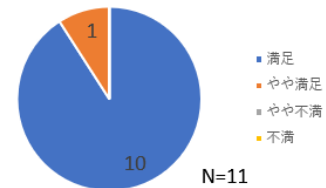
【対象者理解】

「対象者理解」はいかがでしたか



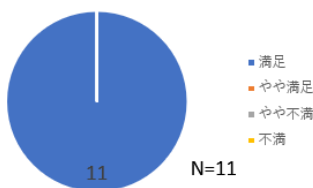
【自然体験活動の指導】

「自然体験活動の指導」
はいかがでしたか



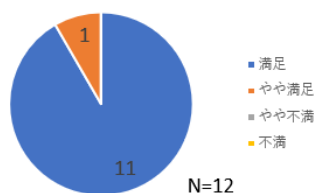
【自然体験活動の技術】

「自然体験活動の技術」
はいかがでしたか



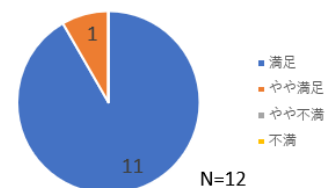
【自然体験活動の特質】

「自然体験活動の特質」
はいかがでしたか



【自然体験活動の安全管理】

「自然体験活動の安全管理」
はいかがでしたか



◆参加者の声

(全体を通して)

- 今回は参加者同士の意見交換する時間が多く、様々な経歴を持つ参加者の意見が聞けて有意義でした。
- 他の参加者との意見交流が沢山あり、気分を切り替えながら活動に向かうことができました。
- 意見交換の時間やグループ替えのタイミングもよく、幅広く交流できたと思います。
- 1泊2日という短期間で講習を受けられるという点はとても助かりました。
- チラシにも書かれていた「対話」というキーワードに惹かれました。仕事の中でも事業開催にあたって、どうすれば対話のようなコミュニケーションができるか、今回はその参考になりました。
- スタッフ・講師の方の指示が的確明瞭で、戸惑うことなくグループワークに入れたのも良かったです。
- テスト問題が思っていたよりも多かったです。解答の選択肢で文脈からみて複数回答あるのでは？と思うような問題があった気がします。
- 講師のことを考えるともっと費用がかかってもいいように感じました。

(各講義・演習について：青少年教育における体験活動)

- 地域の特性を活かした取り組みが多く紹介されていて、自分が生活している地域にある教材について考える機会になった。
- 講義の最後に、オンデマンドでの視聴者を代弁して、スタッフが質問するという形式もおもしろかった。
- 区切りが分かりにくかった。
- 講義の中で、もっと講師とスタッフの方が対話する場面があると、ライブ感があって、よりおもしろい新鮮味のあるオンデマンドになるかと思いました。

(各講義・演習について：対象者理解)

- 子ども自身でできることにも関わらず、指導者やボランティアが過剰に補助に入ってしまう場面を見ることが多く、また自分自身もやりがちな失敗であったため、対象者の発達段階やコミュニティ形成の特徴を踏まえて支援していきたいと思った。
- 「物差し」という言葉がなるほどと思い、自分の「物差し」だけで判断しないようにと思いました。
- 時間が少し足りなくて、後半、駆け足であったので、もっと時間が欲しかった。

(各講義・演習について：自然体験活動の指導)

- セーブザチルドレンの「スタッフが守る子どもたちへの8のやくそく」がとても参考になりました。
- 今まで短時間でしか自然体験活動の指導をしていなかったため、今後の参考になりましたし、皆さんの様々な意見を直接聞けてとてもいい経験になりました。
- 私自身、もっと知識を身に付け、引き出しの数を増やせるようになりたいと思いました。
- 興味を持って、学び続けることが大切だなと感じました。
- 体験活動中の是非を問われるケースを考えるワークを通して、自身の指導する場面でも今回の知識をふまえて担当者間でよく検討したいと思いました。

(各講義・演習について：自然体験活動の技術)

- 体験活動には、人に交流の機会を与えてくれる力があるなと感じました。
- 安全管理は留意しつつも、口出しをしすぎないことの大切さを学んだ。
- 薪割り、後片付け等の新たな知見が得られた。
- 実技のテクニックや留意点、工夫する点を学ぶことができた。
- 自分が覚えていた火おこしの手順が、あまり理にかなっていない点があることに気付くことができた。
- 昔教えられた薪の組みをそのまましてみたが、理にかなった方法ではないことに体験してみることで気付けた。

(各講義・演習について：自然体験活動の特質)

- グリーンウッドの事例を基に、自然体験活動の重要性について述べていただき、とても説得力があった。
- 大変よくわかりました。グリーンウッドを訪ねて、自分の目で確かめたいと思いました。
- グリーンウッドでの活動の様子について、写真や資料を見ることで、子どもってこんなことまで自分でできる力があるのだなという発見があった。
- 今の子どもたちに必要なことは、グリーンウッドでやられているような生活体験なのかもしれないですね。
- 自然体験は単なる体験だけではなく、人との関りや命のこと、社会の仕組みなど、本当に複合的な要素を兼ね備えている活動だと思いました。
- 魅力と同時に、自然体験活動で生計をたて、経営していくことの難しさも感じた。
- グリーンウッドさんの事業やお話はとてもおもしろかったです。以前から山村留学という言葉は知っていましたが、それ以上に調べることはなかったので、今回その一例に触れられてとても興味深かったです。
- 自然体験活動のメリットだけでなく、今後このような活動を実施するにあたり、困難が生じる点についても話題として触れられており、現状に則した講義でした

(各講義・演習について：自然体験活動の安全管理)

- リスクとハザードを別のものとして認識していなかったので、子どもの成長に必要なリスクかを見極められるように経験を積んでいきたいと思った。
- 前日の野外炊事を安全管理の講義でも取り扱って、しっかり落とし込んでいくことは深い学びになった。
- 「できない理由」を見つけるのではなく、「どうすれば実施できるか」を考えることは、今後の指導者として必要な観点だと思いました。
- KYT(危険予知トレーニング)はやったことあったが、前日に実際にやった野外炊事を掘り下げる時間は、こうした講習会では少ないので、大変勉強になりました。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 本講習会のキーワードとして「対話」を示し、各講義・演習では“講師と参加者”や“参加者同士”の対話が生まれるように事例検討やワークショップの機会を多く設けた。そのために、事前に講義を担当する講師と講習会のねらいや、対話を重視した講義内容について、講義の流れを入念に打合せした。
- 「自然体験活動の技術(野外炊事)」では、気温が低いことや参加者の健康状態等も鑑み、喫食については屋内で摂れるようにし、無事に体調不良者等が出ることなく野外炊事を行うことができた。
- 2日目に予定していた講義「自然体験活動の特質」と「自然体験活動の安全管理」においては、1日目に実施していた「自然体験活動の技術(野外炊事)」の内容をグループワークの題材にし、参加者自身が実際に行った共通体験としての野外炊事について深掘りしたことで、参加者からも高評価を頂けた。
- 1泊2日で行うには若干過密スケジュールとなった。今回は、事前にオンデマンドで一部の講義を配信する形で実施し、カリキュラムを完結させることができた。ただし、オンデマンドでの受講については、多数の参加者から「満足」という評価となったものの、参加者がライブ感を味わえるように工夫する必要がある。